



栄光の未来

R6.6.24 発行
第10号

「喜び」あり「悔しさ」あり 市内大会が終了！

市内大会の後半戦が先週の土曜日で終了し、今年度の春の市内大会が全種目で終了しました。前半戦で行われた種目を含め、県大会への進出を勝ち取ったチームや選手もあれば、あと一歩力及ばず悔し涙を流した選手もいます。しかし、参加した全選手が精一杯のプレーをし、他の部員が精一杯の応援をした中での結果であり、結果以上に「頑張った事実」そのものに価値があったのだと思います。



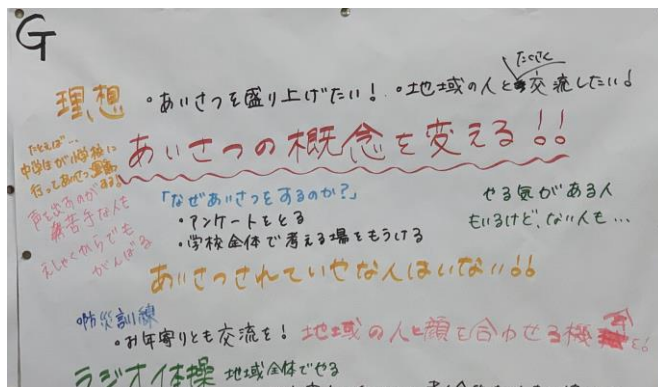
どの会場も、熱戦が続きました！
選手の必死の頑張りに拍手！

県大会まで約3週間。進出したチーム・選手はこの期間で自分たちのレベルをさらに一段引き上げ、各地区を勝ち抜いてきた相手との戦いに臨んでください。また、引退となった3年生は、後輩に思いを引き継ぎ、自身の新たな目標に向かってスタートを切りましょう。代替わりした部活動では、1・2年生による新体制をしっかりと構築し、地域移行後も主体的な活動ができるよう、意識の面も含めて向上を図っていきましょう。

「あいさつ」は、いつでも、どこでも、誰とでも！

東石山中では、「あいさつ」を3本柱の一つに掲げています。朝、玄関で交わされる「おはようございます」のあいさつや、廊下ですれ違うときの「こんにちは」のあいさつは、昨年度に比べてよくなってきているという実感が自分にはあります。

しかし、先日、地域の会合に参加したときに、ある自治会の方から「登校時の生徒のあいさつがほとんどない」という厳しいご意見をいただきました。別の自治会の方からは、あいさつがよく返ってくるという声もありましたが、不十分な実態があることもわかりました。



未来づくり委員会での話し合いを実践につなげることが大事！

一昨年度の未来づくり委員会で、毎月11日を「あいさつの日」とすることが決まりました。そして昨年度は、生徒会が11日を前に昼の放送で全校への呼びかけを行ったり、当日は生徒玄関前に立って登校する生徒へのあいさつを行ったりしていました。6月3日(月)に行われた今年度1回目の未来づくり委員会で、グループ協議であいさつの強化が話題になったところが多かったです。

そもそも、「地域をよりよくする」ための方策として、あいさつの強化に取り組むことになったと聞いています。中学生は、地域の中核となる存在です。この地域の活気を高め、人と人との結びつきを深めていく推進力として、皆さんの「あいさつ」に一層期待したいと思います。